第30回日本糖尿病眼学会総会　モーニングセミナー1

# 糖尿病網膜症診療の新時代へ
## ―画像診断と硝子体手術のトピックス―

**日時**　2024年6月15日(土)7:45～8:45

**会場**　第1会場(赤坂インターシティコンファレンス　4F the Air)

座長

**井上　真** 先生
杏林大学医学部
眼科学教室　教授

近年、糖尿病網膜症(DR)診療における診断と治療は目覚ましい進歩を遂げています。

診断では従来からの検眼鏡的検査や造影検査に加えて、光干渉断層計(OCT)などの画像診断技術が飛躍的に向上しました。また、OCT-Angiography(OCTA)は非侵襲的に短時間で繰り返し撮影可能などであることから、合併症併発や治療効果不良例などの診断に有用と考えられます。

治療においてはその病態の解明が進み、臨床では抗体医薬を中心とした薬剤の使用により、また、手術では小切開低侵襲硝子体手術(MIVS)の確立や手術機器の発達、可視化剤などのアジュバントの使用などにより治療成績は向上しています。

本セミナーでは、DRの画像診断と手術治療、それぞれの分野における新進気鋭のお二人より、ご自身の研究の成果ならびに最新の知見について大いに語っていただきたいと考えております。

本セミナーが、ご参加いただく先生方のDR診療情報のアップデートの機会になれば幸いです。

講演❶

### 画像検査を活用した糖尿病網膜症診療の最前線

**坪井　孝太郎** 先生
愛知医科大学　眼科学講座　助教
医療法人聖明会　坪井眼科　医長

講演❷

### 重症な増殖糖尿病網膜症をどう治すか

**石田　友香** 先生
杏林大学医学部付属杉並病院　眼科　准教授

共催：第30回日本糖尿病眼学会総会／わかもと製薬株式会社

第30回日本糖尿病眼学会総会　モーニングセミナー1

# 糖尿病網膜症診療の新時代へ
## ―画像診断と硝子体手術のトピックス―

**日時** 2024年6月15日(土)7:45～8:45　**会場** 第1会場(赤坂インターシティコンファレンス　4F the Air)

**座長**　**井上　真** 先生　杏林大学医学部 眼科学教室 教授

【略歴】
1989年　慶応義塾大学医学部 卒業
1989年　慶応義塾大学医学部眼科学教室 入局
1994年　杏林大学眼科(網膜硝子体Clinical fellow)
1996年　Duke University Eye Centerに留学 (Research fellow)
2003年　慶応義塾大学眼科 専任講師
2007年　杏林大学眼科 准教授
2014年　同 教授

**講演❶**

## 画像検査を活用した糖尿病網膜症診療の最前線

**坪井 孝太郎** 先生　愛知医科大学 眼科学講座 助教／医療法人聖明会 坪井眼科 医長

【略歴】
2010年　高知大学医学部 卒業
2010年　大阪労災病院 初期研修医
2012年　大阪大学眼科 後期研修医
2013年　大阪労災病院眼科 医員
2016年　愛知医科大学眼科 助教
2019年　オレゴン健康科学大学(米国) 客員研究員
2021年　オレゴン健康科学大学(米国) 上級研究員
2022年　坪井眼科 医長
　　愛知医科大学眼科 助教

糖尿病網膜症は糖尿病患者の約1/3に生じ、特に増殖糖尿病網膜症、糖尿病黄斑浮腫は重篤な視力低下をきたす※1。　そのため、糖尿病患者における眼合併症のスクリーニングは重要である。従来の検眼鏡的検査、眼底写真に加え、近年における超広角眼底写真、光干渉断層計(OCT)、OCT angiographyは非侵襲的な検査としてスクリーニングに有用である。また、機械学習アルゴリズムを用いた網膜浮腫体積測定は、従来検知困難であった糖尿病黄斑浮腫の発見に役立つことが報告されている※2-4。

本講演では、これらの最新の画像技術を用いた糖尿病網膜症診療についてお話させてもらいたい。


※1　Yau JW, et al.:Diabetes Care. 2012;35:556-564
※2　Tsuboi K, et al.:Am J Ophthalmol. 2022;237:164-172
※3　You QS, Tsuboi K, et al.:JAMA Ophthalmol. 2021;139:734-741
※4　Tsuboi K, et al.:Vitreoretin Dis. 2023;7:226-231

**講演❷**

## 重症な増殖糖尿病網膜症をどう治すか

**石田 友香** 先生　杏林大学医学部付属杉並病院 眼科 准教授

【略歴】
2004年　東京医科歯科大学医学部 卒業
2004年　東京医科歯科大学医学部附属病院 初期研修医
2006年　東京医科歯科大学眼科学教室 入局 後期研修医
2013年　東京医科歯科大学大学院 入学
2017年　同 修了
2017年　東京医科歯科大学眼科 助教
2018年　杏林アイセンター 網膜硝子体フェロー
2019年　杏林大学医学部付属病院眼科 助教
2021年　同 講師
2024年　杏林大学医学部付属杉並病院眼科 准教授

近年、糖尿病の全身管理の発達、検診の普及などに伴い、糖尿病網膜症も早期に発見されることが増え、眼科医がレーザー治療など、早期に治療介入することで、重症化する症例が減っている。しかし、未だに30歳代、40歳代の働きざかり世代の未治療糖尿病または血糖コントロール不良の症例は存在しており、いよいよ見えなくなったと眼科を受診した際に、重症な増殖糖尿病網膜症(PDR)が発見される場合がある。

重症例への硝子体手術は、特に都心では頻度は減少傾向であるが、治療成績を上げていかなければならない分野である。重症PDRの手術においては、術中の出血をいかに減らし、視認性の良い手術をするか、増殖膜を除去するさいにいかに網膜を傷つけないようにするか、術後の網膜上にはりつく血餅のような出血をいかに減らすかが重要であると思われる。2万回転の27ゲージカッター、術中OCT、鑷子やフィネッセフレックスループなど術中機材の発達が、そのような重症例において、私たちの手術の安全性を高めてくれている。

本講演では、そのような手術を安全に終わらせるための工夫について紹介する。